

# zxjafont パッケージ (v0.7)

八登崇之 (Takayuki YATO; aka. “ZR”)

v0.7 [2020/01/18]

## 1 概要

X<sub>q</sub>LaTeX + fontspec でのフォントファミリ名を直接指定する方式は「好きなフォントを指定する」という点では、pLaTeX よりも格段に使い易いが、日本語を扱うためには必ず何らかの設定を行う必要があり、これが煩わしく感じられる場合もある。本パッケージでは、日本語 LaTeX において一般的に行われている設定を予め用意しておいて、簡単に呼び出せるようにしている。

### ■前提環境

- フォーマット：LaTeX
- エンジン：XeTeX
- 依存パッケージ：fontspec パッケージ

## 2 使い方

以下のようにパッケージを読み込むだけである。(ユーザ命令・環境はない。)

```
\usepackage[⟨メイン設定⟩,⟨サブ設定⟩,⟨他オプション⟩]{zxjafont}
```

⟨メイン設定⟩は1つだけ指定できるが、⟨サブ設定⟩と⟨他オプション⟩は任意個数指定可能である。もしfontspecが未読込の場合は自動的に読み込む。XeLaTeXには和文と欧文の元来の区別がないので、このパッケージで指定するフォントが全ての文字に通用する。ただし、zxjatypeパッケージでは和文と欧文を区別するので、それと併用の場合は和文のみにフォント設定が適用される。

### 2.1 メイン設定

総称ファミリの設定 (fontspec の `\setmainfont`、`\setsansfont`、`\setmonofont`) を行うもの。

※「メイン設定」はpxchfonパッケージにおける「プリセット設定」をそのまま(ただし明朝・ゴシック2ウェイトに縮減して)引き継いでいる。設定内容の詳細については、pxchfonの説明書を参照してほしい。

※かつてのfontspecでは取り扱うフォントのウェイトが通常 (`\mdseries`) と太字 (`\bfseries`) の2つに限られていた。現在のfontspecでは追加のウェイトがサポートされているが、残念ながら現状のzxjafontはまだ3ウェイト以上の設定には対応できていない。

■単ウエイト用の設定 明朝・ゴシック各々1ウエイトのみを用いる設定。セリフ (`\rmfamily`) に明朝、サンセリフ (`\sffamily`) と等幅 (`\ttfamily`) にゴシックを割り当てる。さらに、`pLaTeX` の習慣に合わせて、セリフの太字 (`\bfseries`) もゴシックにする。(これは必ずしも好ましい設定ではないことに注意。)

- `ms` : MS フォント。
- `ipa` : IPA フォント。
- `ipaex` : IPAex フォント。

※ `XqLaTeX` は「フォント非埋込の PDF 生成」に対応していない。

■多ウエイト用の設定 明朝・ゴシック各々2ウエイトを用いる設定。セリフに明朝、サンセリフと等幅にゴシックを割り当て、各々について通常 (`\mdseries`) と太字 (`\bfseries`) を個別に設定する。

- `ms-hg` : MS フォント + HG フォント。  
※ HG フォント = Microsoft Office 付属の日本語フォント
- `ipa-hg` : IPA フォント + HG フォント。
- `ipaex-hg` : IPAex フォント + HG フォント。
- `moga` : Moga フォント (2004JIS 字形)。  
※ MogaEx 系統が用いられる。
- `moga-90` : Moga フォント (90 / 2000JIS 字形)。  
※ MogaEx90 系統が用いられる。
- `ume` : 梅フォント。
- `kozuka-pro` : 小塚フォント (Pro 版)。
- `kozuka-pr6` : 小塚フォント (Pr6 版)。
- `kozuka-pr6n` : 小塚フォント (Pr6N 版)。
- `hiragino-pro` : ヒラギノフォント基本6書体セット (Pro/Std 版)。
- `hiragino-pron` : ヒラギノフォント基本6書体セット (ProN/StdN 版)。
- `morisawa-pro` : モリサワフォント基本7書体 (Pro 版)。
- `morisawa-pr6n` : モリサワフォント基本7書体 (Pr6N 版)。
- `yu-win` : 游書体 (Windows 8.1 搭載版)。
- `yu-win10` : 游書体 (Windows 10 搭載版)。
- `yu-osx` : 游書体 (macOS 搭載版)。
- `sourcehan` : Source Han Serif (源ノ明朝) + Source Han Sans (源ノ角ゴシック)、非サブセット版\*1。
- `sourcehan-jp` : Source Han Serif + Source Han Sans、日本用地域別サブセット版。
- `noto` : Noto Serif CJK + Noto Sans CJK、非サブセット版。
- `noto-jp` : Noto Serif JP + Noto Sans JP、日本用地域別サブセット版。
- `haranoaji` : 原ノ味フォント。

#### ■他パッケージとの互換用のオプション

---

\*1 つまり、地域別サブセット OTF 版以外のもの。後掲の `noto` も同じ。

- `kozuka` : `kozuka-pro` の別名。(ptex-fontmaps でのプリセット名。)
- `morisawa` : `morisawa-pro` の別名。(ptex-fontmaps でのプリセット名。)
- `moga-mobo-ex` : `moga` の別名。(ptex-fontmaps でのプリセット名。)
- `noto-otf` : `noto` の別名。(luatexja-preset でのプリセット名。)
- `hiragino` : `hiragino-pro` の別名。(ptex-fontmaps でのプリセット名。)

※ 0.6 版で追加。0.4 版以前では `hiragino` が別の設定を指していたが、これは 0.5 版で廃止された。

■ **廃止されたプリセット設定** 0.2a 版以前で用意されていた次のプリセット設定は、0.5 版において廃止された。現在は指定するとエラーが発生する。

※ただし `hiragino` は現在は `hiragino-pro` の別名と解釈される。

`kozuka4`, `kozuka6`, `kozuka6n`, `hiragino`, `ms-dx`, `ipa-dx`, `hiragino-dx`

## 2.2 サブ設定

`fontspec` では使用するフォントを `\newfontfamily` 命令で増やすことができる。それを利用した追加設定である。

- `hg` : Microsoft Office のフォント (HG フォント) に対応する、以下のファミリー命令が定義される。
  - `\hgmcfamily` : HGS 明朝 B、太字 =HGS 明朝 E。
  - `\hgprfamily` : HGS 創英<sup>®</sup>レ<sup>®</sup>ンズ EB
  - `\hggtfamily` : HGS ゴ<sup>®</sup>シック M、太字 =HGS ゴ<sup>®</sup>シック E。
  - `\hggufamily` : HGS 創英角<sup>®</sup>シック UB
  - `\hgmfamily` : HG 丸<sup>®</sup>シック M-PRO
  - `\hgkkfamily` : HGS 教科書体
  - `\hgksfamily` : HG 正楷書体-PRO
  - `\hggsfamily` : HGS 行書体
  - `\hgppfamily` : HGS 創英角<sup>®</sup>ッ<sup>®</sup>体
- `hiraginomg` : ヒラギノの丸ゴシックを使う設定。
  - `\hmgfamily` : ヒラギノ丸ゴ Pro W4
- `mobo` : Mobo フォント (2004JIS 字形) を使う設定。
  - `\mbofamily` : Mobo フォント (2004JIS 字形)
- `mobo-90` : Mobo フォント (90 / 2000JIS 字形) を使う設定。
  - `\mbofamily` : Mobo フォント (90 / 2000JIS 字形)
- `maruberi` : マルベリフォントを使う設定。
  - `\mmfamily` : モトヤ L マルベリ 3 等幅

## 2.3 その他のオプション

- `oneweight` (または`nodeluxe`) : 多ウェイト用のメイン設定を単ウェイトとして用いる。

※ `pxchfon` の説明書の記述において `\setminchofont` と `\setgothicfont` で設定されているウェイトのフォントが用いられる。

- `nooneweight` (または`deluxe`): `oneweight`の否定。  
※`(no)deluxe`は `luatexja-preset` との互換の別名。
- `bold`: `oneweight`と同じく多ウェイト用のメイン設定を単ウェイトとして用いるが、この際のコシック体のフォントとして太字ウェイトに相当するものを用いる。  
※ `pxchfon` の説明書の記述における `\setminchofont` と `\setboldgothicfont` のフォントが用いられる。  
※ `luatexja-preset` とは異なり、`bold`の指定自体が単ウェイト設定を強制する。`bold`と`oneweight`を同時に指定した場合は`bold`が優先する。
- `nobold`: `bold`の否定。
- `prop`: プロポーショナル幅のフォントを用いる。例えば、「IPA 明朝」の代わりに「IPA P 明朝」、「HGS 行書体」の代わりに「HGP 行書体」を指定する。既定で用いるのは等幅のフォントだが、「欧文のみプロポーショナル」の変種 (HG フォントの場合「HGS～」名称のもの) がある場合はそれを優先させている。  
※ `zxjatype` を用いる場合は、和文は等幅フォントを用いることが前提なので、このオプションは指定できない (エラーになる)。
- `noprop`: `prop`の否定。(和文が) 等幅のフォントを用いる。
- `scale=<実数>`: 和文スケール値 (`fontspec` の `Scale` 属性の値)。既定値は、`BXjscls` の文書クラスおよび `zxjatype` パッケージで指定されている場合はその値、なければ 1 となる。
- `jis90/90jis`: 90JIS 字形 (2000JIS 字形) の使用を指定する。
- `jis2004/2004jis`: 2004JIS 字形の使用を指定する。
- `nojisshape`: 特定の JIS 字形の使用の指定を行わない。
- `feature={<属性リスト>}`: このパッケージで指定されるフォント全てに通用する `fontspec` の属性の指定。